

令和4年度第2回北海道独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会
北海道職業能力開発促進センター函館訓練センター部会開催概要

- 1 開催日時 令和5年1月23日（月） 10:00～11:30
- 2 開催場所 北海道職業能力開発促進センター函館訓練センター 小教室
- 3 主な議題
 - ・令和4年度事業実施状況について
 - ・令和5年度事業実施計画について
 - ・その他

4 議事経過

資料に沿って事務局から説明を行った後、意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

- ・新規求職者、特に若年層の求職者が少なくなっているところであるため、SNSを活用した情報発信を行う等で若年層の求職者を掘り起こし、ものづくり関係の応募が増えるよう、ハローワークはポリテクセンター函館と連携していきたい。
- ・ポリテクセンター函館の運営状況を聞き、しっかりと取り組んでいるとの印象を受けた。雇用のミスマッチを解消するため、ポリテクセンター函館と協力し人材確保の取組に力を入れていきたい。
- ・地域雇用についてはコロナの影響がある中で持ち直したように見受けられ、離職者への職業訓練、人材育成、雇用支援等様々な分野において各関係機関で対策を講じていることを大変心強く思う。若年層の地元就職定着における包括的な事業を継続するために、市としてはハローワークやポリテクセンター函館とも協力して、地元就職に効果的な事業を展開できないか検討したい。
- ・ポリテクセンター函館が取り組んでいる在職者訓練及び生産性向上支援訓練は、道南地域の課題に対し、具体的にどのようなことに注力していくかという部分でその最前線になっていると思っている。企業経営者に対して生産性向上の大切さを訴える中でポリテクセンター函館のことを周知していきたい。
- ・人手不足の問題として、3～4年で辞めてしまう状況がここ数年続いており技術の伝承が重要な課題であると認識している。外国人労働者や女性労働者の雇用・人材活用について、他所の活用事例も参考にしながら取り組んでまいりたい。
- ・求人が少なく求職者が多い状況下であるが、本会議を通して業種・企業間によって人気の有り無しが分かれ必要としている所に人材が来ない状況であると認識した。このアンバランスの解消については、それぞれの仕事の魅力を伝え興味を持ってもらうことから行う必要があるのではないかと。仕事の在り方を求職者に理解してもらい業種・企業の選択をできるように、企業訪問をより多く取り入れていただきたい。
- ・機械系の分野に対して求職者が興味を持つために、企業ごとの特色をアピールできるような取組を追求していきたい。
- ・本会議を通し、少子化、女性の活用及び外国人雇用といった現場での問題は、社会構造と直結していると理解した。様々な要望がポリテクセンター函館に期待としてかかっているため、本会議での意見も取り入れますます発展させていただきたい。

令和4年度第2回北海道独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会
北海道職業能力開発促進センター函館訓練センター部会委員名簿

村田 敦郎	(座長)	北海道教育大学函館校キャリアセンター函館校センター センター長
佐藤 昌利		連合北海道渡島地域協議会会長
竹内 正幸		函館商工会議所事務局長
嘉堂 聖也		北海道中小企業家同友会函館支部支部長
小西 義人		函館建築工業協同組合理事長
高山 則夫		北海道機械工業会函館支部支部長
渡辺 康広		函館公共職業安定所所長
菅野 則彦		北海道渡島総合振興局産業振興部地域産業担当部長
小林 利行		函館市経済部部長

(敬称略)